

## ドローンを用いた「彩のかがやき」の追肥診断

近年、水稲生産者一人当たりの経営面積が増加し、生育診断にかかる負担が増加してきています。そこで、ドローンによって追肥の要否を診断する方法について検討し、基準を策定しました

### (1) 空撮の条件

晴れから薄曇りの午前9時～10時頃に圃場を空撮し、NDVI画像を取得する。なお、下記のNDVI指標はマルチスペクトルカメラ Sequoia (Parrot社)を用いて撮影した場合の数値である。

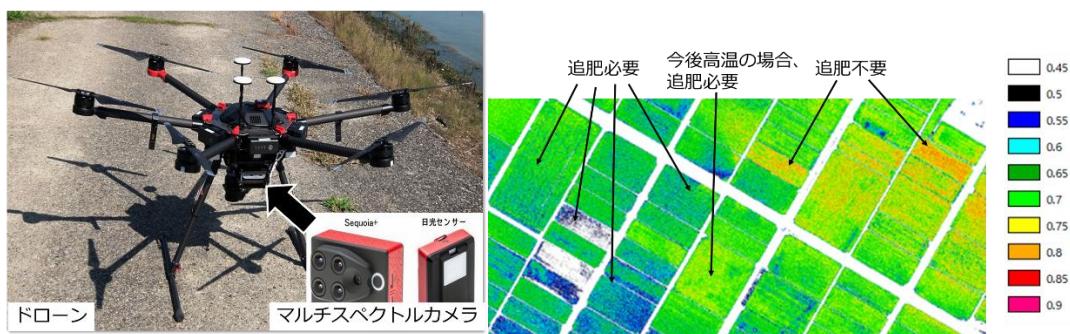
### (2) 中間追肥診断（～5月末移植の栽培に適用）

移植後45～50日頃のNDVIを取得し、下表に基づいて追肥の要否を判断する。

出穂後20日間の気温(予想)	移植後45～50日のNDVI		
	0.7以下	0.7～0.75	0.75以上
通常(27℃未満)	窒素成分 2kg/10aの追肥	追肥の必要なし	追肥の必要なし
高温(27℃以上)	窒素成分 2kg/10aの追肥	窒素成分 2kg/10aの追肥	追肥の必要なし

### (3) 穂肥診断

出穂前20～15日頃のNDVIを取得し、NDVIが0.7を下回った圃場に窒素成分2kg/10aの追肥をする。



具体的な撮影方法やNDVIの取得方法は、埼玉県農業技術研究センターまでお問い合わせください。